

総合計画第3次基本計画の中間総括について

1 趣 旨

- 総合計画第3次基本計画では、施策テーマごとに「まちづくり指標」を設定し、それぞれ5年間で達成すべき目標値を設定しており、個々の指標に掲げる目標値の達成状況の検証及び評価を通して、毎年度の計画の進捗管理を実施している。

今年度は第4次基本計画の策定に着手することから、中間総括として、「まちづくり指標」の主な実績を踏まえて第3次基本計画（平成29年度～令和3年度）の3カ年の取り組み状況について分野別に取りまとめ、それをもとに全体の総括を行った。

2 「まちづくり指標」の令和元年度実績（各年度目標値ベース）※（ ）平成30年度実績

分 野	指標数	達成状況（上段:指標数、下段:分布割合）					備 考
		100%以上	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	
1 地域産業	12	4(5) ----- 33%(42%)	0(2) ----- 0%(17%)	3(0) ----- 25%(0%)	1(1) ----- 8%(8%)	4(4) ----- 33%(33%)	
2 歴史・文化	4	3(2) ----- 75%(50%)	1(1) ----- 25%(25%)	0(1) ----- 0%(25%)	0(0) ----- 0%(0%)	0(0) ----- 0%(0%)	
3 交流・観光	18	8(12) ----- 50%(67%)	2(4) ----- 13%(22%)	5(1) ----- 31%(6%)	0(0) ----- 0%(0%)	1(1) ----- 6%(6%)	※R元年度の実績1件除外 ※集計中1件
4 子育て・教育	20	9(11) ----- 45%(55%)	6(4) ----- 30%(20%)	2(1) ----- 10%(5%)	0(1) ----- 0%(5%)	3(3) ----- 15%(15%)	
5 安全・安心	42	24(28) ----- 62%(67%)	8(9) ----- 21%(21%)	6(3) ----- 15%(7%)	1(1) ----- 3%(2%)	0(1) ----- 0%(2%)	※集計中3件
合 計	96※	48(58) ----- 53%(60%)	17(20) ----- 19%(21%)	16(6) ----- 18%(6%)	2(3) ----- 2%(3%)	8(9) ----- 9%(9%)	

※達成状況は未集計指標5件を除き算出

まちづくり指標の達成状況

- 第3次基本計画の3年目となる令和元年度は、年次目標値に対する達成状況が100%以上の指標数は48項目（53%）、90%以上は17項目（19%）、80%以上は16項目（18%）となり、80%以上達成した指標が約9割となった。
- 分野別の達成状況では、「2 歴史・文化」は100%、「3 交流・観光」が94%、「5 安全・安心」が98%と高いが、「1 地域産業」は58%だった。
- 達成状況の低いものとしては、新技術・新製品・新サービス開発件数（25.0%）、都市農村交流事業による交流人口（30.1%）、船舶の寄港数（18.2%）、スマートフォン用子育て情報提供アプリの登録者数（27.9%）などがあった。

3 中間総括

(1) 分野別評価

① 地域産業

《まちづくり指標の分析と課題》

【産業】

指標	【基準値】 H27 他	H29	H30	R1	【目標値】 R3
No.1 創業件数 (累計・件)	159	124. 2% 149 120	129. 6% 311 240	155. 8% 561 360	600
No.4 企業団地への進出企業数 (累計・社)	3	200% 4 2	100% 4 4	183. 3% 11 6	10
No.2 新技術・新製品・新サービス開発件数 (累計・件)	7	55. 0% 11 20	35. 0% 14 40	25. 0% 15 60	100

(表 1) 産業指標の状況 (各年度実績は、上段：達成率、中段：実績値、下段：目標値)

- ・ 創業機運の醸成や商工会議所やTONIO（富山県新世紀産業機構）などの各種支援機関との連携による創業支援の取り組みを進め、新事業展開・新分野進出を図る企業への支援等にも継続して取り組んできたことにより、企業や雇用環境の整備において一定の成果があったものと考えており、引き続き取り組みを進めていく必要がある。
- ・ 企業誘致等の取り組みにより、四日市工業団地の分譲が平成 29 年度に完了したほか、令和元年度には北陸自動車道高岡・砺波 SIC 至近の IC パーク高岡が分譲を開始し現在 7 社の進出が決定するなど、企業団地への進出企業が増加している。
- ・ 企業訪問を通して制度の周知、案件の発掘を行っているが、より有利な補助制度があることも影響し、本制度の活用に結びついていない。企業訪問を行い、企業ニーズの把握に努め、制度の活用につなげる必要がある。

【伝統産業】

指標	【基準値】 H27 他	H29	H30	R1	【目標値】 R3
No.3 伝統産業生産額 (百万円／年)	12, 374	92. 0% 11, 659 12, 670	90. 7% 11, 495 12, 670	84. 6% 10, 716 12, 670	12, 670

(表 2) 伝統産業指標の状況 (各年度実績は上段：達成率、中段：実績値、下段：目標値)

- ・ 平成 29 年 11 月に新たに「越中福岡の菅笠」が国の伝統的工芸品の指定を受け、また、高岡銅器産業が文化財修復事業を行うなど、長年にわたって培われてきたものづくりの技術を活かした取り組みを進めてきた。しかし、ライフスタイルや嗜好の変化に伴う個人消費の落ち込みなどにより、生産額が減少している。引き続き、販路開拓や新製品の開発に努めるとともに、その技術・技法を継承する担い手の育成が喫緊の課題となっている。

【農林水産業】

指標	【基準値】 H27 他	H29	H30	R1	【目標値】 R3
No.8 担い手への農地集積率 (%)	61	95.0% 62.7 66	92.1% 63.6 69	86.5% 61.4 71	76
No.9 6次産業化の新規事業取組者数 (累計・人)	2	200% 2 1	150% 3 2	133.3% 4 3	5
No.10 都市農村交流事業による交流人口 (人／年)	7,700	35.9 2,764 7,700	26.6% 2,050 7,700	30.1% 2,318 7,700	7,700

(表3) 農林水産業指標の状況 (各年度実績は上段：達成率、中段：実績値、下段：目標値)

- ・ 農業の持続的発展に向け、J Aや富山県農林振興センターなど関係機関と連携した担い手の経営・農業技術サポートの実施や、農地利用集積による効率的な経営体系への移行促進などの取り組みにより一定の成果を挙げてきた。令和元年度から農地集積率の算出方法を国に合わせて一部見直したことにより、実績が減少したため、引き続き取り組みを進めていく必要がある。
- ・ 高岡産品の6次産業化や高岡ブランドの開発に向け、アドバイザー支援や園芸作物作付の支援に努めており、引き続き事業者が新規に取り組みやすい環境を整備するとともに、その魅力発信に努めていくことが求められる。また、農地や農業用水などを持つ農山村地域の地域資源の保全・活用など、農林水産業の持続的発展に資する取り組みを推進していく必要がある。
- ・ 里山交流センターのイベントや体験農園への参加者は継続して確保できた。一方で、平成29年度に自然休養村が廃止されたことから、目標達成には至らず、目標値の見直しを検討する必要がある。

《今後の方向性》

- ・ ものづくり産業は本市の強みであり、市民が高岡に愛着と誇りを持ち、また市外のものづくりに関心のある方を本市とつなぐためにも、引き続きその活性化や情報発信が必要である。
また近年、在宅勤務、オンラインや新たな技術を活用した商業活動が活発になるなど、働き方の新しいスタイルが顕在化しているため、市民が多様なライフスタイルや働き方を選択できることが重要となった。従って、担い手の育成や次世代技術の導入などを積極的に支援し、ものづくり産業をはじめ、多様な産業の活性化を図っていく必要がある。とりわけ、農林水産業については、I T技術の活用やスマート農業の導入などにより、農山村での暮らしを将来にわたって残していくことが求められる。

② 歴史・文化

《まちづくり指標の分析と課題》

【歴史・文化】

指標	【基準値】 H27 他	H29	H30	R1	【目標値】 R3
No.13 歴史・文化施設入込者数 (人/年)	1, 175, 372	95. 5% 1, 124, 660 1, 178, 000	96. 6% 1, 149, 436 1, 190, 000	92. 4% 1, 109, 437 1, 201, 000	1, 210, 000
No.16 高岡市万葉歴史館の入館者数 (人/年)	24, 290	91. 5% 23, 783 26, 000	84. 2% 22, 736 27, 000	226. 2% 63, 336 28, 000	30, 000

(表 4) 歴史・文化指標の状況 (各年度実績は上段：達成率、中段：実績値、下段：目標値)

- ・ 国宝瑞龍寺や重要文化財勝興寺をはじめとした文化財の保存・修理、山町筋・金屋町などの伝統的な町並みの保存・活用事業を展開し、着実に取り組みを進めてきた。令和元年度は、台風の影響や、近年の旅行形態が個人や小グループなどにシフトしていること等により、歴史・文化施設への入込者数は前年度に比べ減少した。今年度は、勝興寺の保存・修理事業が完了することから、その周辺環境整備を行うとともに、吉久地区の歴史的町並みを活かしたまちづくりへの取り組みを進めるなど、今後とも歴史・文化資産の保存・活用を図ることとしている。
- ・ 万葉歴史館において、令和特別展示や特別講座の実施など、積極的に改元記念特別事業を実施することで、万葉のふるさと高岡を全国にPRした。この万葉ブームを一過性のものとせず、交流人口や関係人口の拡大につなげていくため、今後も高岡万葉まつりや道の駅「雨晴」の活用などの取り組みを進めていく必要がある。
- ・ 芸術・文化活動については、市民会館が平成 30 年 1 月から休館している。しかし、市民やアーティストが芸術文化に触れ、発表できる機会を提供するため、ユニークベニューTAKAOKAプロジェクト等を実施し、市民の文化エネルギーの獲得を図った。また、創造的な活動に携わる市民をはじめ、関係人口など多様なひとが集い、交流し、新たな価値や文化を創造するため、高岡クラフト市場街などを通して、機会の創出を図っている。今後は、芸術文化に親しみ楽しむことができる環境づくりを推進するため、「創造の場」のあり方の検討が求められている。

《今後の方向性》

- ・ これまで先人たちから受け継いできた歴史・文化資産は高岡の宝である。加賀前田家による近世から近代における歴史や伝統のみならず、古代の越中国府から続く二上山一帯から臨海部に広がる北部地域の歴史・文化的資産を現代に活かし、市民が愛着と誇りをもって生活するとともに、市外から交流人口や関係人口を呼び込むことができるよう、高岡らしい歴史・文化資産の魅力をさらに高め、磨きあげていくこと、これらに触れ親しむ機会を創出することが重要である。加えて、文化創造都市として、芸術・文化活動が生み出す創造的な活動やエネルギーをまちの活性化につなげるための環境づくりが必要である。

③ 交流・観光

《まちづくり指標の分析と課題》

【観光】

指標	【基準値】 H27 他	H29	H30	R1	【目標値】 R3
No.17 高岡市の観光客入込数 (万人/年)	380	94.3% 377 400	91.7% 385 420	82.4% 371 450	450
No.23 外国人宿泊者数 (人/年)	8,823	106.5% 8,522 8,000	131.4% 10,511 8,000	142.4% 11,394 8,000	9,000

(表5) 観光指標の状況(各年度実績は上段：達成率、中段：実績値、下段：目標値)

- 北陸新幹線開業後も、これまで磨きあげてきた歴史・文化資産を活かすとともに、道の駅「雨晴」や山町ヴァレーなどを新たな観光資源として活用するなど、観光誘客に取り組んできたが、近年は旅行形態がシフトする傾向にある。一方、外国人宿泊者数は、これまでのインバウンド戦略が実を結び、順調に増加した。今後とも、ものづくり産業や歴史・文化資産を取り入れ、産業観光を含めた旅行商品の開発に取り組み、多様化する観光客のニーズに応えることで、滞在時間を増やしていく。また、「飛越能の玄関口」として、県西部地域を含めた飛越能の各地域との連携により、圏域内の観光地を巡る旅行商品の開発に取り組んでいく必要がある。

【交流】

指標	【基準値】 H27 他	H29	H30	R1	【目標値】 R3
No.25 中心市街地・観光地周辺における歩行者通行量 (人/日)	16,670	106.6% 18,229 17,100	102.4% 17,517 17,100	82.1% 14,425 17,560	17,670
No.27 まちなか居住推進総合対策事業に伴う定住人数 (人/年)	60	111.7% 67 60	143.3% 86 60	83.3% 50 60	60
No.33 船舶の寄港数 (隻/年)	7	40.0% 4 10	45.5% 5 11	18.2% 2 11	13

(表6) 交流指標の状況(各年度実績は上段：達成率、中段：実績値、下段：目標値)

- 中心市街地では、都市基盤整備により、末広西地区や高岡駅前東地区において、マンションやホテルの開業など、民間による再開発が活発となっている。
更に、歴史・文化資産を活かした山町ヴァレーなどのリノベーションまちづくりを行った。また、金屋町において移住体験施設「さまのこハウス」がオープンし、地域に存在する資産に新しい価値が吹き込まれた。これにより、中心市街地における歩行者通行量は目標値を上回って推移していたが、令和元年度の大和高岡店の退店などにより、新幹線開業以前の値まで減少した。今後は、セリオタウン構想を進めるとともに、リノベーションまちづくりの更なる進展や、まちなかへの誘引性の高いイベントに取り組み、ものづくり技術の体験や歴史・文化資産を絡めながら、中心市街地の賑わいを取り戻していくことが求められる。

周辺市街地においても、木津土地地区画整理事業や高岡やぶなみ駅の整備など、基盤整備が進んでおり、各地域間を交通ネットワークでつなぐことが求められる。

- 全国的にもクルーズ船の誘致は盛んになっており、日本海側では金沢港に寄港が集中している。クルーズ船は西回り航路が多く、伏木港へは、能登半島を回り込むため、運航時間が長くなり寄港地での滞在時間が短くなることや、金沢港との背後観光地が重複していること等が原因となっている。そのため、今後東回りクルーズの積極的な誘致や高岡ならではの新たな寄港地観光プランの造成等を行い、県や商工会議所など関係機関と協力しながら寄港増に向けて取り組む必要がある。

《今後の方向性》

- 北陸新幹線敦賀開業を見据えながら、観光客のニーズに応え、本市のものづくり技術や歴史・文化資産を活かした観光誘客を図り、交流人口や関係人口の拡大、ひいては定住人口へとつなげる取り組みが必要である。
また、人口減少・少子高齢化が進行する中で、これまで整備してきた都市基盤や交流基盤を活かし、コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりを進め、公共交通を利活用しながら歩いて暮らせるまちづくりに取り組むことが重要である。 今後は、近隣市との広域連携を一層推進するとともに、外部人材の積極的な登用を図り、鉄軌道や路線バスなどの骨格的公共交通などによる各地域間の交通ネットワークを確保する必要がある。

④ 子育て・教育

《まちづくり指標の分析と課題》

【子育て】

指標	【基準値】 H27 他	H29	H30	R1	【目標値】 R3
No.35 認定こども園の設置数 (園)	4	112.5% 9 8	122.2% 11 9	160.0% 16 10	14
No.36 病児保育事業実施施設数 (施設)	3	100.0% 3 3	100.0% 3 3	125.0% 5 4	4
No.38 子育てに関する相談対応件数 (件/年)	4,664	115.7% 5,437 4,700	112.3% 5,280 4,700	105.5% 4,959 4,700	4,700
No.39 子育てへの不安・負担度 (%)	41.7	86.5% 38.6 34.0	41.6% 50.7 32.0	55.7% 43.3 30.0	28.0
No.37 子育て情報提供アプリの登録者数 (人)	H28 年度開始	46.8% 1,403 3,000	33.6% 1,850 5,500	27.9% 2,233 8,000	9,000

(表7) 子育て指標の状況 (各年度実績は上段：達成率、中段：実績値、下段：目標値)

- 今後、女性の就業拡大や保護者の働き方・価値観の変化が進んでいくと考えられることから、多様な保育ニーズに応えられるよう、教育と保育を一体的に提供する認定こども園や病児保育事業の充実を図ることが必要である。加えて、特色ある教育・保育サービスを提供する民間の放課後児童クラブの活用も図り、安心して子どもを生み、育てられ、かつ子ども自身が健やかに成長できる環境づくりを推進していくことが求められる。
- また、子育てへの不安・負担の解消に努めるため、令和元年10月から開始した幼児教育・保育の無償化や子ども医療費助成等による経済的支援を継続するとともに、子育て支援センターの相談体制の充実等により精神的負担の軽減を図ることが求められる。
- 子育て情報提供アプリの登録者数については、計画策定時から出生数が低下していることに加え、第2子以降を妊娠・出産された方は、第1子の妊娠・出産時に既にアプリを登録している場合があることや、目標値は、父母ともに登録することを前提に設定したものであるが、父母のいずれか一方が登録していれば必要な情報が得られることなど、目標値を設定した際の想定と実態にかい離が生じたことが目標値を下回った主な原因であると分析している。今後、本施策の進捗や成果を的確に把握するため、指標の考え方の見直しを検討する必要がある。

【教育】

指標	【基準値】 H27 他	H29	H30	R1	【目標値】 R3
No.47 郷土に誇りをもつ心を育むことができた児童・生徒（％）	90	102.2% 92 90	102.4% 92.2 90	101.0% 90.9 90	90
No.48 郷土に誇りをもつ心を育むことができた教員（％）	90	106.7% 96 90	102.7% 92.4 90	103.0% 92.7 90	90

（表 8）教育指標の状況（各年度実績は上段：達成率、中段：実績値、下段：目標値）

- 平成 18 年 4 月から「ものづくり・デザイン科」を本市独自の教科として導入し、本市への誇りと愛着を持つ心の育成に努めてきたところであり、この取り組みを継続していくことが非常に重要である。

また、平成 30 年度に設置した高岡市教育将来構想検討会議では、学校教育及び社会教育・生涯学習等の振興に向け、教育の充実や学校の再編、施設の有効活用などの諸課題について、今後 10 年を視野に基本的な方向を幅広い観点から総合的に検討を進め、小中一貫教育の推進に取り組み、義務教育の 9 年間を見直した教育課程を編成する必要がある。さらには、地域の特色を活かしながら、系統的で計画的な一貫教育を推進し、小中学校の教員が連携・協力して、継続的な指導を行い、学力やスポーツ、文化、芸術など多様な能力の向上に努め、これからの高岡を担う子どもたちの教育充実に鋭意取り組むことが望まれる。

加えて、これまで校舎や体育館などの耐震化や空調の整備を順次行い、安全で適切な教育環境の確保に努めてきた。また、慶應義塾大学 S F C 研究所との連携による双方向の遠隔教育の実施や G I G A スクール構想に取り組むなど、I C T 環境の整備を進めている。

《今後の方向性》

- 子育て・教育分野の環境整備は着実に進んできており、子育て分野では、子どもの健やかな成長を実現し、親となる次代の若者が、生み・育てる希望を叶える環境を整えるとともに、親が子育ての不安や負担を乗り越え、子育ての喜びを実感できるよう、引き続き、妊娠・出産期、乳幼児期、学童・思春期といったライフステージに応じた子育て支援施策を推進する。

また、教育分野では、郷土教育や I C T 環境の整備、学校再編や小中一貫教育の推進などに引き続き取り組み、地域への愛着と誇りを持つとともに、目まぐるしく変化する時代の潮流に対応し、将来の高岡を切り拓く若者を地域ぐるみで育てていく様々な取り組みを、全市的に進めていくことが重要である。

⑤ 安全・安心

《まちづくり指標の分析と課題》

【地域・高齢者福祉】

指標	【基準値】 H27 他	H29	H30	R1	【目標値】 R3
No.55 福祉ボランティア登録人数 (人/年)	11,396	90.0% 10,796 12,000	99.4% 11,923 12,000	88.4% 10,606 12,000	12,000
No.58 認知症サポーター養成数 (人)	12,039	106.0% 15,906 15,000	105.1% 17,344 16,500	105.6% 19,015 18,000	20,000
No.60 介護予防事業における住民主 体の通いの場の立ち上げ数 (カ所)	20	156.7% 47 30	225.0% 90 40	250.0% 100 40	50
No.61 介護予防事業における住民主 体の通いの場の参加者数 (人)	62,500	96.5% 63,179 65,500	108.3% 72,571 67,000	105.0% 71,413 68,000	70,000

(表 9) 地域・高齢者福祉指標の状況

(各年度実績は上段：達成率、中段：実績値、下段：目標値)

- ・ ボランティア登録者の高齢化により活動継続ができない団体が出ていること
や、雇用年齢の拡大等によりボランティアを始める年齢が高くなっていることが
要因と考えられる。少子高齢化や核家族化の進展等によって、地域のつながりが
希薄化してきており、高齢者や障がい者を含めた全ての人が、住み慣れた地域で
安心して安全に暮らしていけるよう、地域福祉ネットワークの構築やボランティ
ア活動の促進など、地域全体で支え合い、助け合う共生社会の実現に向け取り組
んでいく必要がある。
- ・ 急速な高齢化の進行による、認知症等の要介護者の増加を見据え、地域住民や
あらゆる分野の民間企業等に対し、今後ともサポーター養成講座の受講を働きか
け、サポーターを確保していく必要がある。更には、認知症高齢者等 SOS ダイ
ヤルシステム登録の普及啓発を図るなど、認知症高齢者を地域で支える地域づく
りを目指すことが求められる。また、人生 100 年時代を見据え、健康寿命の延伸
につながる介護予防については、目標値を上回っているものの、介護予防活動の
担い手が不足しており、住民主体の通いの場の立ち上げが困難な地区もあること
から、民間事業者を活用した介護予防活動を新たに検討していく必要がある。

【医療】

指標	【基準値】 H27 他	H29	H30	R1	【目標値】 R3
No.65 市民病院と地域医療機 関等との患者の紹介率 (%)	31	103.5% 41.4 40	147.7% 63.5 43	148.9% 68.5 46	50
No.66 市民病院と地域医療機 関等との患者の逆紹介率 (%)	43	94.7% 56.8 60	146.3% 92.2 63	147.3% 97.2 66	70

(表 10) 医療指標の状況 (各年度実績は上段：達成率、中段：実績値、下段：目標値)

- これまでの開業医訪問などの活動が結実し、市民病院が地域医療支援病院の承認を得ることができた。今後も地域の医療機関と連携・協力しながら、医療の質とサービス向上を図り、安全で安心な医療提供に努めていくことが必要である。また、新型コロナウイルス感染拡大を受け、感染症指定医療機関として最前線に対応するため、検査や治療に対し受け入れ態勢を整えてきたところであるが、今後も未知なるウイルスによる感染症が発生する可能性もあることから、新たな感染症が発生した際に、市民病院をはじめとして地域医療が早急に対応できるような態勢を構築しておく必要がある。

【防火・防災】

指標	【基準値】 H27 他	H29	H30	R1	【目標値】 R3
No.75 わがまち訓練の実施地区数 (累計・地区)	6	90.9% 10 11	105.3% 20 19	96.0% 24 25	36
No.78 防火防災講習会参加者数 (人/年)	1,784	197.9% 3,563 1,800	134.9% 2,630 1,950	124.7% 2,619 2,100	2,400

(表 11) 防火・防災指標の状況 (各年度実績は上段：達成率、中段：実績値、下段：目標値)

- 毎年実施する市総合防災訓練を通じ、防災知識の普及・啓発を行うとともに、参加経験のない地域住民に防災防火講習会の参加を働きかけるなど、近年多発する自然災害に備え、市民一人ひとりの防災に対する意識の向上を図っていくことが重要である。
- 防災行政無線や防災情報メールなど複数の情報伝達手段の整備・活用に努めるとともに、砂防・地すべり・急傾斜地崩壊防止対策や浸水対策、河川の整備や雪対策の充実などにも取り組み、今後も災害に強いまちづくりを推進していくことが求められる。

【水道】

指標	【基準値】 H27 他	H29	H30	R1	【目標値】 R3
No.85 上水道管路の耐震化率 (%)	21.3	100.4% 22.7 22.6	100.9% 23.4 23.2	100.8% 24.1 23.9	25.1
No.86 下水道普及率 (%)	93.3	100.1% 93.9 93.8	100.1% 94.1 94.0	100.1% 94.4 94.3	94.7

(表 12) 水道指標の状況 (各年度実績は上段：達成率、中段：実績値、下段：目標値)

- 上下水道は市民生活の根幹であり、今後も、上水道は、老朽管布設替・配水管路整備や未普及地域への整備を行い、安全で安心な水の安定供給と災害に強い水道施設の構築に取り組む必要がある。

下水道については、引き続き、未普及整備を着実に推進する。一方で、市内全域の生活環境の向上と公共用水域の保全を保持する観点からは、合併処理浄化槽整備を含めた汚水処理施設整備の早期の概成に取り組む必要がある。

【市民が主役の地域づくり・多文化共生】

指標	【基準値】 H27 他	H29	H30	R1	【目標値】 R3
No.89 地域コミュニティセンターの利用者数 (人/年)	170,591	125.8% 226,491 180,000	134.7% 242,447 180,000	117.5% 211,512 180,000	180,000
No.91 外国人のための生活相談コーナーの利用者数 (人/年)	2,699	89.6% 2,419 2,700	87.6% 2,366 2,700	97.4% 2,631 2,700	2,700

(表 13) 市民が主役の地域づくり・多文化共生指標の状況

(各年度実績は上段：達成率、中段：実績値、下段：目標値)

- 今後、人口減少・少子高齢化が進行する中で、自治会組織等の高齢化及び担い手不足が進むことが想定されることから、地域の将来について地域ごとに考えていただく機会づくり、国の制度や他地域の先進的な取り組みの情報提供により、地域コミュニティの維持・強化や地域コミュニティの中での多文化共生を図ることがますます重要となってくる。

《今後の方向性》

- 市民生活の土台となる安全・安心については、福祉や医療、防火防災の施策や上下水道の整備などの環境づくりを進めてきた。人口減少・少子高齢化が進行する中、環境を維持・強化していくには、継続した基盤整備とともに、環境を活用する「ひとの力」(地域住民をはじめとする全ての「ひと」がその個性や能力を社会で発揮し、輝く「ひとの力」と個々の力がお互いを認め合い、支え合う地域としての「ひとの力」)を強めていく必要がある。

このため、地域住民に持続可能なまちづくりの普及啓発を行い、意識の醸成を図ることにより、地域住民が主体となり、行政をはじめ各種団体と連携しながら、誰もが居場所と役割のあるコミュニティを構築することが重要である。(これによって市内の各地域がそれぞれの魅力を発揮し、活力あふれる地域が形成され、それぞれの地域が将来にわたって営んでいくことが可能となる。)

(2) 総括

- 本市はこれまで、東海北陸自動車道の全線開通や北陸新幹線の金沢開業をチャンスととらえ、様々な都市基盤・交流基盤の整備により、「都市の強み」を体系的に構築するとともに、400年の歴史を持つものづくりに加え、これまで先人たちから受け継いできた歴史・文化資産を「まちの魅力」として磨きあげてきた。
- 総合計画第3次基本計画では、まちの将来像として「市民創造都市 高岡」の実現を掲げ、①北陸新幹線や高速道路網などの広域交通基盤を活かした広域交流と観光客誘致の取り組み、②居住機能や都市機能の適切な誘導を図るコンパクト・アンド・ネットワークのまちづくり、③「令和」新時代を追い風として、「万葉のふるさと高岡」の発信や、瑞龍寺及び勝興寺の保存・修理の取り組みなど、本市の歴史・文化の魅力を高める取り組みを進めてきた。さらに、④幼児教育・保育の無償化や学校再編、小中一貫教育、ICT教育の推進など、子育て・教育環境の充実に重点的に取り組んでいる。
- こうして「都市の強み」の構築と「まちの魅力」の磨きあげを着実に積み重ねるとともに、人口減少対策にも取り組んできた。しかし、今後も人口減少・少子高齢化が避けられず、更なる生産人口の低下や少子化が進むことで、地域経済の活力低下が懸念される。このため、行政サービス、公共施設やインフラ等を合理的かつ効率的に維持・活用することにより、今後は既存のストックを有効に活用し、近隣市との連携も一層進めながら、持続可能なまちづくりや地域づくりを進めていくことが重要である。
- 「都市の強み」と「まちの魅力」を最大限に活用するために必要となるのは、それを使いこなす「ひと」であり、「ひとの力」が今後の持続可能なまちづくり、地域づくりにおいて主役となると考えている。このため、総合計画のリーディングプロジェクトと位置付けている第2期高岡市総合戦略「みらい・たかおか」は、若い世代、特に女性の転出超過や子どもの人口減少に対応すべく、将来を切り拓いていく人材を育てる「ひと」の創生を起点に、「まち」「ひと」「しごと」の好循環を確立することとしたところである。